



本多 里奈

空を埋め尽くす無数のカラス、冬に飛来する美しいハクチョウの群れ。私たちに「こわい」「きれい」「圧倒される」など様々な感情を抱かせてくれる群れる鳥は、身近でありながらその行動の正体が分からない少し遠い存在でもあります。

そんな鳥たちに着目した特別展「群れる鳥」を令和7年10月23日（土）から令和8年2月23日（月・祝）に開催しました。展示では5つの章に分けて、群れる鳥と私たちの関係や、群れを作る鳥のユニークな行動や生態を紹介しました。

第1章 人と鳥の群れ

鳥の群れは自然の中だけでなく、世界中の文化や芸術の中に登場します。文化の中に潜む群れの中でも、最も普遍的な存在がカラスです。カラスの群れは、古今東西一貫して「不吉・死」の象徴として扱われています。一方で、芸術に目を向けると、鳥の群れは西洋よりも東洋でよく見られます。伊藤若冲の『群鶏図』をはじめ、日本画には主題や背景として鳥の群れがよく描かれてきました。また、チドリが群れで飛ぶ様子に見たてて名前が付けられた千鳥格子は、日本の伝統的な図柄と思われがちですが、実はヨーロッパ発祥の図柄です。英語では「Houndstooth（猟犬の牙）」と呼ばれます。鳥の群れを題材にした作品やデザインに注目すると、日本人がいかに鳥の群れに注目して魅了されてきたかを感じることができます。

今回、多くの事例を紹介するために、美術館や博物館から芸術作品の高精細画像をお借りして印刷し、実物作品のように展示しました。また、一部の絵画の横には題材となった鳥の剥製を配置し、作品と見比べられるようにしました。千羽鶴や絵画でおなじみのツルの一種タンチョウの剥製を見た来館者からは、「こんなに大きい鳥だったのか」と驚きの声が上がっていました。

第2章 旅する群れ

この章以降、群れる鳥を行動・生態学な視点から紹介しています。第2章では、群れで渡りをする鳥に注目しました。ハクチョウ類やガン類に見られる家族の群れ、カモ類や小鳥に見られる希釈効果^{*1}をもつ群れ、タカ類に見られる集合^{*2}のような群れを紹介しました。

形態とは異なり、行動や生態は剥製を見るだけで理解することはできません。そこで、イラストや写真付きの解説を充実させることで、鳥が群れをつくる理由を知ってもらえるようにしました。さらに、展示が単調にならないように、また解説を読まなくても楽しんでいただけるように、オナガガモの飛翔型本剥製や、サシバやハチクマといった普段間近で見る機会の少ない猛禽類を目立つように展示しました。

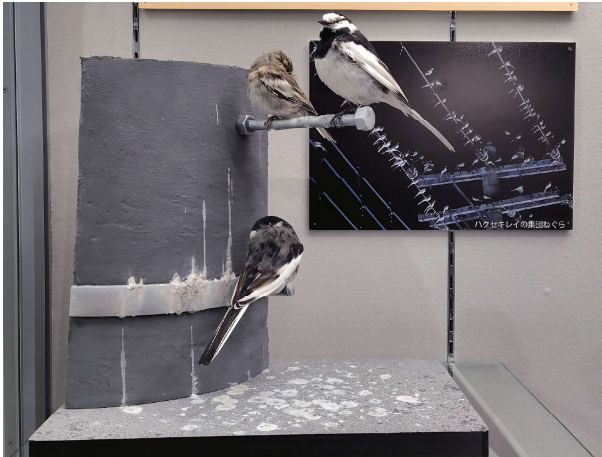


オナガガモ
(我孫子市鳥の博物館蔵)
野外で撮影したオナガガモの群れの写真を背景に用いることで、臨場感を演出した。

第3章 眠る群れ

この章では、集団ねぐらを形成する鳥や、集団ねぐらがどのように形成されるかそのメカニズムを紹介しました。また、今回この展示をするにあたり、ハクセキレイの集団ねぐらを模したジオラマ風の剥製を新たに製作しました。ハクセキレイ

の姿勢やねぐらのシチュエーションを細かく剥製会社にお伝えし、細部にまでこだわって製作していただきました。剥製を見た来館者や職員からは「めっちゃめっちゃフンがついている…」と、笑いつつもちょっと嫌そうな声が上がっていました。実際、ハクセキレイの集団ねぐらには大量にフンが落ちているので、実物を見た感覚を疑似的に体感してもらえたのではないかと思います。



ハクセキレイの集団ねぐらを模したジオラマ風剥製「めっちゃめっちゃついているフン」の他に、片足で止まっている様子や眠る姿勢にも注目してほしい。

第4章 お食事の群れ

この章では、群れで採食する鳥たちについて紹介しました。一口に採食の群れといっても、得られる利益や鳥たちの振る舞いは様々です。アトリなどの小鳥は、群れを作ることで「監視の目」を増やし、警戒にかかるコストを減らすことができます。また、カワウやハシビロガモは、群れで採食をすることで餌をより効率的に捕らえることができます。これらの鳥は主に同種で集まって採食しますが、複数の種が集まる場合もあります。カラ類は、混群^{こんぐん}*3 を形成する鳥たちの中でも最も身近な存在です。混群の中では、利用・協力・騙し合いなど、昼ドラ顔負けの様々な関係が見られます。混群の構成員となる種とそれらの振る舞いを剥製と解説パネルを用いて紹介したほか、今回新たに製作した混群のジオラマ剥製も展示しました。

第5章 愛の群れ

最後の章となる「愛の群れ」では、つがい形成や営巣^{いっくすう}など、繁殖の際に形成される群れに注目しました。合コンをするカモ類や、レックというダンスホールで出会いを求めるエリマキシギ、集団繁殖地（コロニー）というアパートで子育てするカワウやアオサギなど、「人でもこういうことあるよね」と思えるような面白い行動・生態を中心に紹介しました。また章の最後で、かつて埼玉県に存在した国の特別天然記念物「野田のさぎ山」を紹介しました。「野田のさぎ山」は江戸時代から存続していたサギのコロニーで、1952年に国の特別天然記念物に指定されましたが、コロニーが崩壊し、1984年に指定解除となりました。特別天然記念物としては、全国で唯一の解除事例です。時には守られ、時には疎まれ、数百年ものあいだ人に翻弄され続けたコロニーについて、その設立から崩壊までの経緯を解説しました。



カワウのコロニー

おわりに

残念ながら群れる鳥と人の中には軋轢^{あつれき}が生じがちです。糞害や騒音被害、食害など、鳥が群れることで様々な問題が起こっているのも事実です。しかし、群れる鳥は文化に根づくほど私たちにとって身近な存在です。そして、彼らは驚くほど多様で面白い生態をもっています。少しでも興味を向けて相手を知ることが共存への第一歩になるのではないのでしょうか。本展示が、少しでもそのきっかけになっていることを願っています。

(ほんだ りな・学芸員)

*1 集団が大きくなればなるほど1個体あたりの捕食される確率が低下する現象

*2 個体ではなく環境が誘引材料となって形成される集団。ただし、タカの渡りでは個体間のコミュニケーションも見られる。

*3 複数の種で構成される群れ